

# いよいよ本番! 3Dプリンター 活用

58

部長に、導入の経緯やこれ

までの成果、今後につい

て聞いた。(姫路・村上授)

「3Dプリンターを導入

した理由は、

「今後、斜陽が想定され

る鑄物事業で新事業の立ち

上げが必要だと思ひ設備を

入れた。ノウハウの積み重

ねをしなから造形技術の確

立を進めている」

019年、レザードビム

型金属3Dプリンターを兵

の

施錠部品を試作しまし

た。

「普段はロスエトックス

した。小型鑄物部で作る

上半水通用のホル鉄ぶ

どいう精密鑄造により製造

だの施錠部品を試作した結

果、製造ロスや時間が従

くなければ金型を作り直

す。そつなると時間とコス

トがかかる。金属3Dプ

リ

ンターを使えば

外注でなく社内

で寸法調整でき

るほか、ロスを

減らせる。本来

タツやタス

といったネジ切

り加工で溝を出

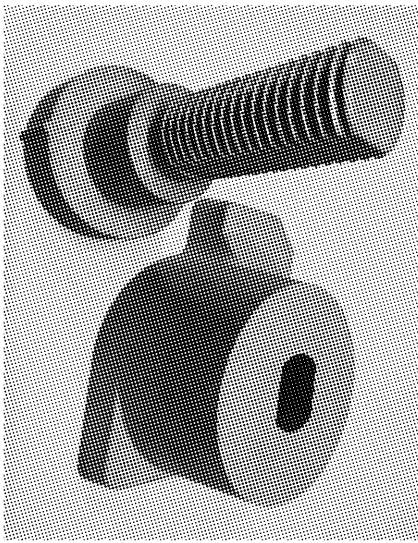
さないといはな

3Dプリンター

で試作したフ

ホル鉄ぶた向

け施錠部品



## 鑄物に應用、開発コスト3分の1

いが、3Dプリンターで公

差の中間値くらいを狙ひ、

後加工なしにできた」

「製作にかるロスはず

くなりましたか。

「従来のリードタイムは

1カ月だが、3Dプリンタ

1だど回かトライしても

5日で製作できた。今まで

は金型の作り直しがあつた

が、それがなくなる。ま

だ、3Dプリンターだと約

12万円のコストで製作でき

る。従来の開発初期コスト

も3分の1程度にできた」

「鉄ぶた用部品のほか、

他分野での活用は考えてい

ますか。

「鋳鉄所やエムテック所

使つた3Dプリンター設備は送風

機にも試作品のような小型

部品を使つているとみてい

る。送風機を手がける部

に声をかけている」

「ほかにも計画はありま

すか。

「試作品の製作だけでな

く、今回の設備投資で鑄鉄

以外の材料開発にも挑んで

おり、その糸口を探ってい

る。現在の3カ年経営計画

が終わる22年3月期までに

は、何らかのめどを一立

てたい」

虹技開発部部长

田中 康平氏